

気ままに 時間旅行

25

江戸時代初期に日本中を揺るがした島原・天草一揆。領主の奇政やキリストン弾圧に耐えかねた人々が蜂起し、幕府軍が鎮圧に当たった。島原は、立てもつた原城は最大の激戦地。両者は、どのような思いで戦ったのか。長崎県南島原市の原城跡（国史跡）を訪ねた。

（文・野村大輔 イラスト・河辺瑞樹）

東側の大手口跡を抜けると、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリストン関連遺産」のエリアだ。緑地に囲まれた小道を歩いて本丸跡を目指す。

二ノ丸の空端部は「出丸」と呼ばれ、一揆勢と幕府軍が相対した最前線。最新の調査で、付近から一揆勢が使ったとみられる堅穴遺構が見つかった。

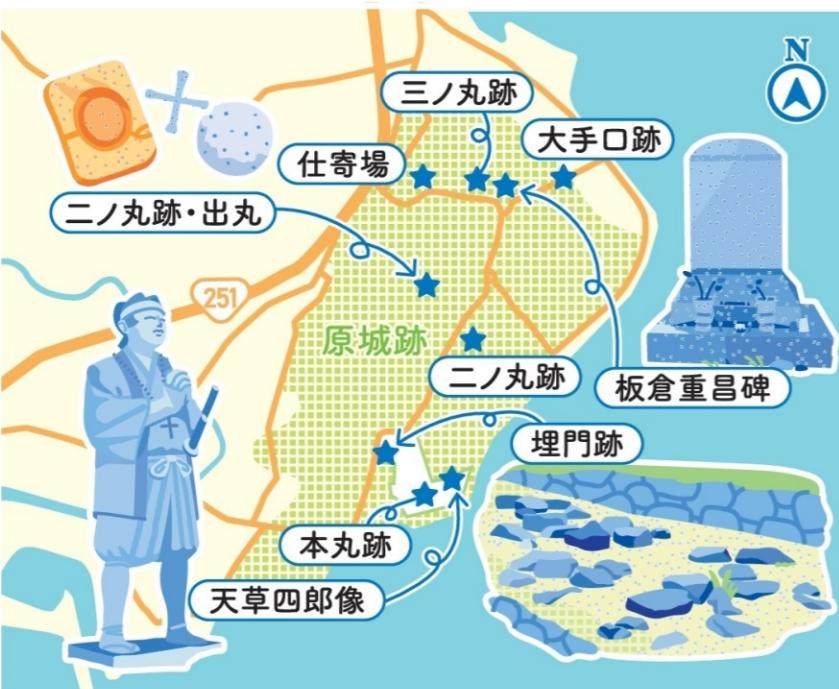
市教育委員会文化財課によると、えぐられた壁面に炭化物や焼土が残り、火を使う簡易施設と推定される。鉛製の十字架のほか、鉛の塊や砂岩が出土したため、信仰の道真を作る工房の役割も果たした可能性があるといふ。

一揆勢は、城に撃ち込まれた銃弾を再加工し、十字架を作つたと考えられているが、実は、火を使った痕跡が城内

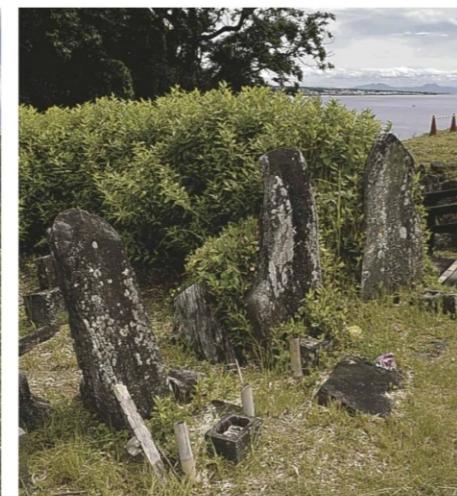
島原・天草一揆



武士の‘存在証明’の場



①本丸跡の片隅に佐分利九之丞の墓がある
②本丸跡の天草四郎像は、海に向かって祈りを捧げている



メモ 日野江城跡（国史跡・長崎県南島原市北有馬町）も見逃せない。松倉重政が島原城を建て、廢城に。仏塔の石材を使った階段遺構などが出土している。
有馬キリストン遺産記念館（同市南有馬町）は、キリスト教の伝来から繁栄、弾圧までの歴史を伝える。日野江城跡、原城跡の出土品も展示。入館料は一般300円ほか。木曜休館。電話=0957(85)3217。

一揆勢は銃弾を十字架に加工

平和が訪れ、武士は武功から遠ざかっていた。島原に押しかけた胸中を木村教授はこ

話す。

西日本新聞me

う読み解く。「武士としてのアイデンティティを守りたい、名を残したいとの思いがあつた」

西日本新聞me

一揆勢の大部分が原城で犠牲となり、幕府軍も大勢が死傷した。「どちらも時代の犠牲者」と伊藤学芸員は語る。

一揆後、島原半島南部は住民が激減し、荒れ果てたという。それぞれの強い思いがぶつかつた戦い。波の穏やかな有明海を眺め、犠牲者を悼んだ。

九州各藩も幕府の指示通り参戦したという。九州各藩は50人以上の鉄砲隊を引き連れ、参戦したと云う。

九州各藩も幕府の指示通り多い軍勢で戦っていたようだ。幕府軍約12万人とされるが、木村教授は「実際は15万人以上いたのではないか」と

で見当たらなかった。やく生産現場らしい遺構が見つかった」と同課の伊藤健司学芸員（考古学）は話す。蜂起に至る背景は運載20回目（2024年4月10日掲載）で記した。一揆勢は島原城を攻め落とせず、天草の勢力と合流し、2万数千人が廃城となっていた原城に立てこもった。包囲する幕府軍は約12万人に達し、一揆勢は猛攻と食糧難に苦しめられた。堅穴遺構から「極限の状態で戦うため、十字架を作つて配る様子が読めない」と伊藤学芸員。その光景を思い描くと、「今までこんな景色は心中で一変した」と伊藤学芸員。

幕府軍が出丸のそばに置いた陣地「仕寄場」の近くに、

総大将を務めた板倉重昌を悼む石碑が立つ。自ら前線に立つて原城を強引に攻めたものの、一揆勢の反撃を受けて戦死した。51歳だった。

大坂夏の陣は1615年。それから20年以上、戦争のな

い時代が続いた。実戦経験の乏しさもあり、原城を攻めあがねた幕府軍。新たに総大將

藩・有馬豊氏も戦線に加わった。

70歳前後の2人は歴戦の

「レジエンド」。「勇士の参

戦で軍を統率できるようにな

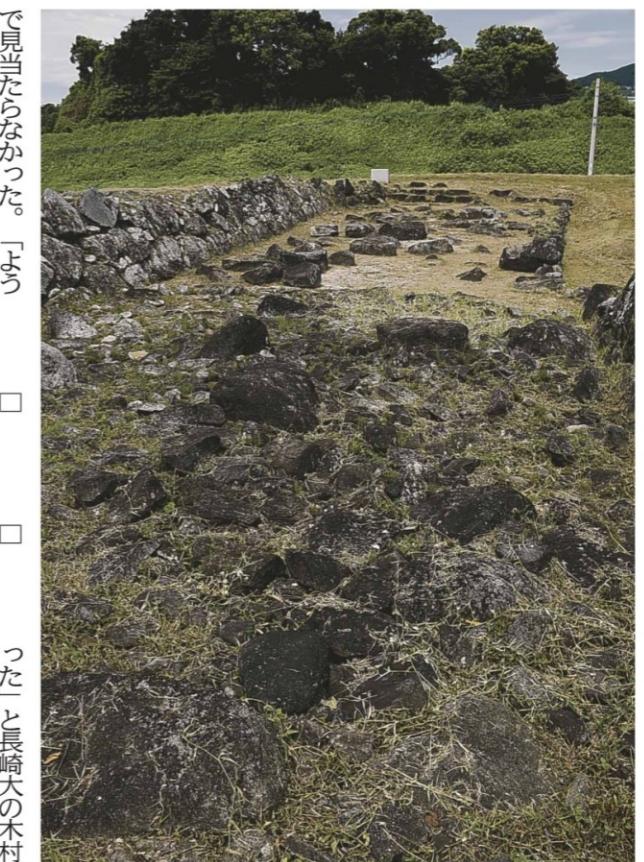
った。藩主・柳川藩・立花宗茂や久留米

藩・有馬豊氏も戦線に加わった。

70歳前後の2人は歴戦の

「レジエンド」。「勇士の参

戦で軍を統率できるようにな



本丸跡の「埋門跡」。幕府軍が石垣を壊し、埋めた状況が読み取れる



原城跡の本丸跡。有明海を一望できる